

足利市立葉鹿小学校々歌

♪ = 108

明るく元気に

作詞 小林政一
作曲 下総暉一

Musical score for the first part of the school song. It consists of two staves: treble and bass. The treble staff has a key signature of one sharp (F#) and a common time signature. The bass staff has a common time signature. The lyrics are: み おうはじにぎわいしむ.

Musical score for the second part of the school song. It consists of two staves: treble and bass. The treble staff has a key signature of one sharp (F#) and a common time signature. The bass staff has a common time signature. The lyrics are: なもととうきわたらせのな かしおのかげをしのびてん.

Musical score for the third part of the school song. It consists of two staves: treble and bass. The treble staff has a key signature of one sharp (F#) and a common time signature. The bass staff has a common time signature. The lyrics are: がれはすめるわがはじかな 三、朝かげ映ゆる赤城嶺の 常新しき山の色.

Musical score for the fourth part of the school song. It consists of two staves: treble and bass. The treble staff has a key signature of one sharp (F#) and a common time signature. The bass staff has a common time signature. The lyrics are: さとす理想のあめつちは 我等が上にかがやけり 昔のかげをしのびてん.

Musical score for the fifth part of the school song. It consists of two staves: treble and bass. The treble staff has a key signature of one sharp (F#) and a common time signature. The bass staff has a common time signature. The lyrics are: 二、篠生の森のときわぎの 幾世榮ゆくふかみどり あした夕べに仰ぎつつ 力合わせていざ立たん.

一、源遠き渡良瀬の
流れはすめるわが葉鹿

名に負うはじににぎわいし
昔のかげをしのびてん

二、篠生の森のときわぎの
幾世榮ゆくふかみどり
あした夕べに仰ぎつつ
力合わせていざ立たん

三、朝かげ映ゆる赤城嶺の
常新しき山の色
さとす理想のあめつちは
我等が上にかがやけり

葉鹿小校歌 を解釈する

葉鹿小学校の校歌を作曲した

音楽家 「下總院一先生」

明治三十一年（1898）埼玉県原道村（現大利根町）に生まれます。

埼玉師範学校卒業後、大正九年東京音楽学校（現・東京芸術大学）を首席で卒業

します。その後大正十三年栃木師範学校に教師として着任、この頃から本格的に

作曲を取り組みます。昭和二年三月、栃木師範学校を去りますが、のちに

栃木県内の小・中・高校の校歌を、七十数校作曲したと言われています。

昭和七年三月、文部省在外研究員として作曲法の研究のため、ドイツに渡り

ベルリン国立高等音楽学校に入学、パウル・ヒンデミット教授に師事。昭和九年

九月帰国します。帰国後、著した「和声学」「対位法」「作曲法」など多くの

理論書は、作曲を志す人たちの間で今も読まれています。また日本の近代音楽の

基礎をつくったとされ、「和声学」の神様とも言われています。

作曲家、田伊玖磨さんも芸大時代を含め、七年間先生の指導を受けています。

昭和三十一年東京芸術大学の音楽学部長となります。

下總院一先生の作曲は、童謡、唱歌、校歌、クラシック、管弦楽、室内楽、

声楽、や日本の伝統音楽まで及び、生涯で作曲した曲は三千曲余を数えています。

「電車」 「笛」 「花火」 「たなばたさま」 「野菊」 「母の歌」 「かくれんぼ」
などよく知られています。

昭和三十七年六十四歳で他界しました。

葉鹿小学校校歌を作曲された「下總院一先生」は」のようの方です。

* 大利根町「下總院一を忍ぶ会」資料提供

名に負う（名にふさわしい・名高い）

土師（はにし転、古代埴輪や土器の製作や
陵墓の造営に従事した人）

◎土師氏一豪族、後裔（子孫）に「菅原道真」がいる

賑わう（富み栄えている・豊かである）

影（心に思いうかべる姿・形・面影）

偲び（離れている人や過ぎ去った事を思う・
懐かしむ）

てん（強い意志を表す、てむ転）

常磐木（常緑樹、転じて、永久不変の意）

幾世・幾代（どれほど多くの年代・何年・何代）

榮行く（ますます榮える・榮え続ける）

朝夕（あさゆき）

タベに仰ぎつつ（朝夕仰ぎ見ること）

いざ（人を誘つたり、行動をうながす時に発する語）

ん（強い意思を表す語）「立たん」

朝影（朝の日の光・朝の陽光）

映ゆる（いっそう鮮やかに見える）

嶺（峰・山の頂き）

常（不变、永遠の意を表す）

諭す（教え導く・川・森・山・嶺が諭してくれること）

理想（考えられる最も完全な目標）

輝く（生き生きとした様子）

り（輝きが、過去から現在、そして未来へも
続く意）